ニューヨークタイムズ紙における見出しの変遷

原　田　一　男

Ⅰ　まえがき

ジャクソンデモクラシーが盛んとなった1830年代に，米国の新聞は，現代新聞への転化と発展の時を迎えた。それは産業革命と資本主義の発達が近代的労働者人口を生み，従来6セントもして財産や教養のある階級向けの新聞が，一挙に1セントのいわゆるペニーペーパーが一般大衆向け(1)に販売され始め，広告収入と販売部数の急増となったことに始まる。

ニューヨークタイムズ紙は，当初 New-York Daily Times の紙名で，社会の木たくの理想(2)のもとに，1851年9月18日1セントで発刊された地方新聞であったが，大衆紙（Popular）や低俗紙（Tabloid）に対抗する品位を保った新聞（Quality）として，その後幾多の変革を経て今日に至っている。

新聞英語は，現代英語（Present-day English）へのアプローチとして適した資料であり，また *One Hundred Years of Famous Pages from The New York Times* 1851-1951（Simon Co. 1951）が入手できたので，これをテキストとした。なお，見出しと対象期間を1851年～1920年としたのは，見出しとその割付けの変化が一番大きな時代に焦点を当てたからである。

Ⅱ　新聞見出し（Headline Language）の特徴

英字新聞の見出しの作成は，現在では小規模新聞を除き，原稿整理編集者（Copy Editor）が記事内容の軽重度を考慮し，そのスペースを確保して考案する熟練を要するもので，原稿記者はこれを作成しない。見出しの用

法は，新聞社の営業面に影響を与えると同時に一般散文に対する影響も大きいだけに，見出し語 (Headlinese)[3] については，次のとおり，是々非々がある。

> It would be unreasonable to criticize headilines for not conforming to literary standards, or even for lacking any grammatical structure. If sometimes there is a touch of vulgarity in them, that is not likely to lessen their appeal to the average newspaper reader..., and so to serve as a corrective of the habit of relying wholly on newspaper headlines for a knowledge of what happening in the world.[4]

> （見出しが文章基準に合致していない，または文法構造上欠陥があるとして批判するのは妥当でない。時として，見出しに俗悪な感触があっても，それは一般の新聞読者に読ませたいとする見出しの訴えを減退させるものではない。（筆者中略）このようにして，世界状況の知識を新聞の見出しに全て依存しようとする悪習慣を矯正することとなる。）

> These tricks (of the headline language), when allowed to affect literary style, destroy both precision and elegance; sentences stumble along painfully and obscurely in synthetic lumps instead of running easily and lucidly with analytical grace. The corruption has gone far, affecting especially political speeches, official writing, and commercialese.[5]

> （（見出し用語の）この様な（冠詞・前置詞等の省略）要領が文体に影響を及ぼすこととなれば，その正確性や優雅性を崩壊することとなる。即ち文体は容易にしかも明確に理解できる美しさで流れる代りに加工された文全体の中でのたうち廻ることになる。この改悪は，特に政治家の演説・公文書及び商業文にまで及んでいる。）

では，替否両論あるなかで利用され続けている Headlinese の現在語法

を簡単に説明する。

1. 見出しは，記事の最も簡潔な紹介で記事の軽重によって，活字の大小，副題の量が決定される。
2. 短い綴り語を多用する。

   Ex. agreement・・・・accrod, pact

   discuss・・・・mull

   investigate・・・・probe, quiz

   reduce・・・・axe, slash
3. 冠詞，接続詞を省略する。

   Ex. (1) Dollar Hits Record Low Against Yen

   (2) USSR, Liberia To Resume Ties
4. 略語，短縮語，記号等を使用して文を短かくする。

   Ex. (1) GOV. Oks Tax Cut Bill

   (2) US 2nd Qtr. GNP Rises Annual 1.1%
5. Noun-adjective を使用して文の短縮を図るが，時には文意をあいまいにする。

   Ex. a large fleet vehicles[6]は，

   a large fleet of vehicles か

   または a fleet of large vehicles

   であるか不明となることがある。
6. 時制について，過去・現在完了形は現在形で，未来は to ＋動詞原形で表わし Be 動詞は通常省略する。

   Ex. (1) U. S. June Deficit With Japan Dips 26.1 %

   (2) 5 Companies To Set Up lst Int'I Bank

   (3) Crucial Portion Of Shuttle Joint Found in Ocean

Ⅲ NYTの見出しの変遷

1. NYTの創刊号，即ち1851年9月18日号の第1面は，商業新聞では

なく政府発行の官報と変らない紙面構成である。

この時の見出しは，全て1コラム内の小活字で，名詞句4行と動詞の過去形1行で，他は外電が船で送られてきたニュースが，国名の見出しの下に，国内のものは都市名の下に直接記事となっている。(別掲図1参照)

Ex. (1) The News from Europe.

(2) Arrival of the Europa's Mail.

(3) Affairs in England.

(4) The Election in France——Arrests & O.

(5) Apprehended Disturbance in Austria.

(THE NEW-YORK DAILY TIMES, (NYDT) Sep. 18, 1851, p. 1)

上例の(1)～(4)はいずれも名詞句，(2)では無主物所有格の使用，(1)，(2)，(4)では冠詞を用い，またいずれも末尾に period をが見られ，(5)は過去形表現で現今とは大きな違いがある。

なお，(2)の Europa は船名で，(4)の O は others を短縮したものである。

2. 日本が安政元年神奈川条約で開国したことを報じたニュースの見出しである。

Ex. (1) JAPAN OPENED.

(2) Satisfactory Result of Commodore Perry's Visit.

(3) Three Ports Opened to American Trade.

(4) Agreement to Furnish Coal to American Steamers.

(NYDT, June 13, 1854, p. 1)

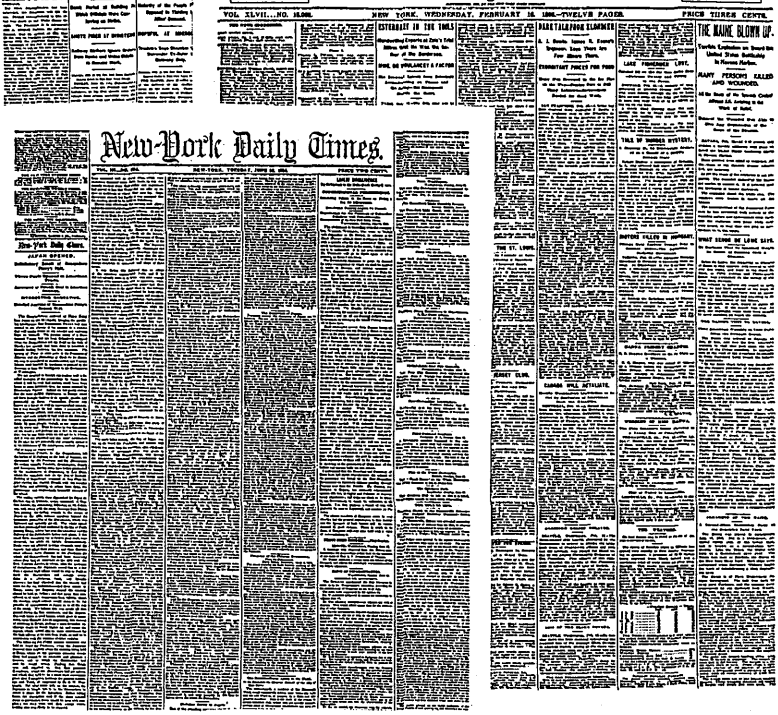
(1)及び(3)は，Be 動詞または Have 動詞の省略と受け取られ過去分詞と解する。記事内容によると，ペリーは3月24日に江戸を出発し香港に立寄っている。ワシントンへの報告は，同行した軍艦サラトガの船長に委託したため，3カ月近くも遅れたニュースとなった状況から便宜過去形の動詞に分類した。

(2)と(4)には長い綴り語が使われ，見出しが新聞に使用され初めた初期で

図1　NYTの紙面

The New York Times.

PEACE SIGNED, ENDS THE GREAT WAR; GERMANS DEPART STILL PROTESTING; PROHIBITION TILL TROOPS DISBAND


The New York Times.

New-York Daily Times.

上　June 29, 1919付

中　Feb. 16, 1898付

下　June 19, 1854付

あることをうかがわせる。

3. 南北戦争直前に奴隷廃止を主張した John Brown が黒人の蜂起を期待して仕組んだ事件記事の見出しである。

Ex. (1) SERVILE INSURRECTION.

(2) The Federal Arsenal at Harper's Ferry in Possession of the Insurgents.

(3) GENERAL STAMPEDE OF SLAVES.

(THE NEW YORK TIMES, (NYT) Oct. 18, 1859,p. 1)

南部人に対し狂暴なことで名を知られていた白人の J. Brown が数名の白人と黒人計20名程度で兵器庫を奪取した事件であることは本文記事で理解できるのに,「奴隷の反乱」と(1)に, また(3)では「奴隷の大暴走」としている。Stampede は, 動物の暴走の意でメキシコのスペイン人が1834年から使ったもので, これを人間の暴走の意に転意したのは, 1846年以降[7]当時の新らしい用法で, 社会背景やこの見出し等から軽蔑的に使っていると思われる。Harper's Ferry はポトマック河沿いの地名である。

4. 19世紀の新聞見出しは, ほとんど1コラム（横幅, 約6㎝）の中に納めており, 現在のような数段抜き, あるいは全段抜き (Banner Headline) は考えられなかったため, 表現の簡単な名詞句が多用された最大の理由であろう。その内容伝達の不足部分は, 副題 (Bank) を数行続けて補っている次の例である。

Ex. (1) A Solemn and Imposing Event.

(2) Dedication of the National Cemetry at Gettysburgh.

(3) IMMENSE NUMBERS OF VISITORS.

(4) Oration by Hon..., Speeches of President Lincoln, Mr...

(NYT. Nov. 20, 1863.p. 1)

5. 南北戦争で北軍の勝利を報道する1面の見出しは,

Ex. UNION (約36ポイント縦経12㎜)

VICTORY!（約24ポイント縦経 8 mm）

PEACE!（　同　上）

（NYT, April, 10, 1865,p. 1）

と始めて大活字を使用しているが，1コラムのみで，副題に1コラムの約3分の2を当てて，大ニュースであることを記号も使って簡明に表現している。

6. 創刊から1898年までの見出し対象個数419件のうち，動詞の現在形を使っているのは，僅か14件3.3％（第1表参照）である。この用法は，Headlinese とか，現在時制の習慣や反復性ではなく，むしろ未来や継続性を表わす場合が多いようである。

Ex. (1) Rebel Officers Retain Their Side Arms and Private Property.

（NYT, April 10, 1865, p. 1）

Ex. (2) The American Minister at Lisbon Demands Satisfaction.

（NYT, April 15, 1865,p. 1）

7. 1896年，赤字が続き破産状態であった NYT を Adolph S. Ochs が買い取り，当時米西戦争を煽動したとされている Yellow Journalism に対抗して，4年間で経営を立直した。[8] その一つが，同紙の第1面の左肩に「All the News That's Fit to Print」（印刷にふさわしいすべてのニュースを）の社是である。

この頃米国新聞界に大きな波乱がわき起った。それは，New Journalism と Yellow Journalism[10] との競争である。

New Journalism は The New York World の Joseph Pulitzer が，新編集方針として，取材記者の専門別養成，署名抜きの社説，労働者問題の大巾取上げ等で販売部数の増加を図かり，またイラストや大見出しの採用，娯楽記事の増大等で変革を与えたことである。

一方 Yellow Journalism とは，The New York Journal を経営していた William R. Hearst が World との対抗意識から人材の引抜き，さらに残忍

な犯罪，暴露記事，色刷紙の発行，キューバでの反米思想を誇張する等をして，販売部数の拡大をした一連のことを指している。

しかし，この競争が新聞編集面にもたらした利点も多く，全段抜き大見出し，写真の使用，日曜版の進歩等見逃せない点も多かった。

上述のようなニューヨーク新聞界の情況を背景に，米西戦争の一因となった米艦メイン号爆発事件の見出しを引用する。

Ex. THE MAINE BLOWN UP. Terrible Explosion on Board the United States Battleship in Havana Harbor. Many Persons Killed and Wounded. All the Boats of the Spanish Cruiser Alfonso XII. Assisting in the Work of Relief.
None of Wounded Men Able to Give Any Explanation of the Cause of the Disaster.

(NYT, Feb. 16,1898,p. 1)

この見出しは，1コラム内に12行にわたったもので，本文にも爆発原因は不明となっていて，用語を含め事実のままを伝えている中庸な表現で不自然さがない。本記事は事故の翌日付であり，例文3－4行目の見出し文は，Assisting の前に are が省略されている現在形に分類した。前世紀末頃に，大見出しの末尾に period を省略し始めたようであり，2月16日付の大見出しには，Period を省略したものと，してないものが混在している。

なお，Yellow Papers の原本は入手不能であったので，参考文を添付する。

The outrages were horrible, but they were exaggerated by unscruplous "yellow" newspapers in New York City and other cities. The press led many Americans away from their traditional unwillingness to interfere in the affairs of another country..... In 1898, however, the yellow papers at once called the Spaniards guilty. American anger surged.... Although Republican leaders did not want war, McKinley yielded to the popular outcry,"Remember the Maine!"[11]

(アンダーラインは筆者)

8. 次は，Queen Victoria 御せい去の翌日の見出しである。

Ex. (1) QUEEN VICTORIA DEAD AT OSBORNE

(2) Passed Away Quietly at 6:30 o'Clock Last Evening.

(3) AMERICAN TRIBUTES TO QUEEN VICTORIA

(4) President McKinley Cables Condolences to the New King.

(5) WASHINGTON FLAGS LOWERED Such a Mark of Respect Had Never Been Before Paid on the Death of a Monarch—— Action by Congress.

(NYT, Jan. 23, 1901, p. 1)

(1)は，is の省略形，(2)の passed away は，Victorian era にかけた euphemism 表現，(3)TRIBUTES は名詞で(4)が(3)の副題となる。(5)の大文字は，Be 動詞が省略され，副題の完了形は敬意を表わすため強調した特異な表現と思われる。

9. 20世紀になると，New Journalism の影響もあって，見出しは大きな変化を示し始める。次は旅順開城の時の見出しである。

Ex. (1) STOESSEL, AFTER LONG CONFERENCE, SURRENDERS CITY

(2) Articles of Port Arthur's Capitulation Signed at 4:30 o'Clock yesterday Afternoon.

(3) MIKADO SENDS HUMANE ORDER

(NYT, Jan. 3, 1905, p. 1)

見出しは常に現在形であるとする現在の慣習も，(2)のように過去を示す修飾語句がある場合は，省略されている助動詞の be も，were と理解するのが正しいようである。

(3)の sends も sent の意味内容であるが，この行為の結果が，相手を含め後世まで欧米の称賛を得て，見知らぬ日本人を見直させたと云われ，現在形の的を射ているようだ。

(2)に関連した本文記事を次に添付する。

"The plenipotentiaries of both parties concluded their negotiations today at 4:30 o'clock. The Russian Commissioners accepted on the whole the conditions stipulated by us and consented to capitulate. ...

(NYT, Jan. 3, 1905, p. 1)

10. 無線送信設備が始めて大西洋の両端を結んだ内容を表わす見出しである。

Ex. (1) WIRELESS JOINS

(2) Marconi Transatlantic Service Opened with a Dispatch to The New York Times.

(3) MESSAGES FROM EMINENT MEN

(NYT, Oct. 18, 1907, p. 1)

(1)—(3)は，それぞれ文体が3様に変っている。現在の新聞社では文体や語法のガイドブックを備えて，例えば，*The New York Times Manual of Style and Usage, The Washington Post Desk Book on Style, The Associted Press Stylebook and libel manual*[12] 等があって文体や用語の調整をしている。(2)の Marconi は，発明者にちなんで1897年以降使われだしたものである。[13]

11. タイタニック号が北大西洋で氷山に衝突沈没した記事の第1面からである。

Ex. (1) TITANIC SINKS FOUR HOURS AFTER HITTING ICEBERG;

866 RESCUED BY CARPATHIS PROBABLY 1250 PERISHED;

BIGGEST LINER PLUNGES TO THE BOTTOM AT 2:20 A. M.

(2) The California Stands By on Chance of Picking up Other Boats or Rafts. Olympic sends The News.

(NYT, Apr.16, 1912, p. 1)

本事件の報道では，全段抜き見出し及び5段抜きの大型写真が使われ，現代版と変らぬ割付けとなった。

(2)の船名 California には定冠詞をつけ，他の Olympic と(1)の Titanic に省略されている不揃いは，取忙ぎの原稿であったと思われる。

12. VIP の事故は例外なく受動態で報道されて，これは過去においても変りがない。

Ex. (1) HEIR TO AUSTRIA'S THRONE IS SLAIN WITH HIS WIFE BY A BOSNIAN YOUTH TO AVENGE SEIZURE OF HIS COUNTRY

(2) Francis Ferdinand Shot During State Visit to Sarajevo.

(3) SLAIN IN SECOND ATTEMPT

(4) LAID TO A SERVIAN PLOT

(5) Heir Warned Not to Go to Bosnia, ...

(6) AGED EMPEROR IS STRICKEN

(NYT, June 29, 1914, p. 1)

オーストリア皇太子夫妻の暗殺でその影響が大きく副題も多くなっている。上の例文はいずれも主語に関心をおいた受動態で表現されているが，この様に同種の文体が集中しているのも目立ち過ぎる。なお，(1)の SLAIN の前に IS が省略されていないのは，大事件であるため，読者の reading speed を slow down させ，内容を十分に味あわせる目的と思われる。

13. Journalise において，即報性や躍動感を出すため，本文中ではしばしば時制の不一致が見られても，見出しでは数少ない時制の一致の例外事例である。

Ex. (1) LLOYD GEORGE PINS GERMANY DOWN AT MEETING

(2) TOLD TALK IS VALUELESS——Must Present to Conference Today A Definite Statement.

上例は，第一次世界大戦の講和条約の交渉が，難行し会談を重ねた時の状況で，見出しで，会議中の言葉遣いまでわかるようである。

Ⅳ　見出しの傾向

見出しの傾向を知る手段として，見出しの文型を，雑ではあるが，次の5型にまとめ，この変化を見ることとした。

①名詞句表現，②動詞の現在型表現，③動詞の過去型表現，④形容詞句表現，⑤未来型表現

※　文型分類基準

1.　名詞句　名詞句表現のもの

Ex.　Satisfactory Result of Commodore Perry's Visits.

2.　動詞現在型　現在形の動詞を使用または省略した文。(受動態，完了形を含む。)

Ex.　FRANKLIN HOPEFUL ALL DAY

Protests of Authorities Ignored.

3.　動詞過去型　過去形の動詞を使用した文。過去分詞で時制が明白でないものは，時代の傾向と背景によって便宜分類した。

Ex.　JAPAN OPENED.

WORDSWORTH THREW NEW YORKERS' VOTE

QUEEN BADE THEM FAREWELL

4.　形容詞句　形容詞句表現のもの。

Ex.　IMPORTANT FROM WASHINGTON

Undisturbed at the Paris Elections.

5.　未来型等　ｔｏ＋動詞原形，Will, May, must等の助動詞を含む文。

Ex.　THE FUNERAL PROBABLY BE AT FROGMORE

British Minister, Accused of Anti-American

Tendecies, to Go to Brazil.

見出し文型別※推移率表

文型＼年代		1851～1860	1861～1870	1871～1880	1881～1890	1891～1900	1901～1910	1911～1915	1916～1920
1 名詞句	件数	68	148	48	26	21	45	25	14
	%	82.0	65.8	69.8	63.5	33.4	21.5	13.7	4.6
2 動詞現在型	件数	1	9	2	2	12	93	102	233
	%	1.2	4.0	2.9	4.9	19.0	44.6	56.0	76.4
3 動詞過去型	件数	9	38	17	11	22	46	27	35
	%	10.8	16.9	24.6	26.8	34.9	22.0	14.9	11.5
4 形容詞句	件数	5	25	2	1	2	12	20	9
	%	6.0	11.1	2.9	2.4	3.2	5.7	11.0	3.0
5 未来型等	件数		5		1	6	13	8	14
	%		2.2		2.4	9.5	6.2	4.4	4.5
計	件数	83	225	69	41	63	209	182	305
	%	100	100	100	100	100	100	100	100

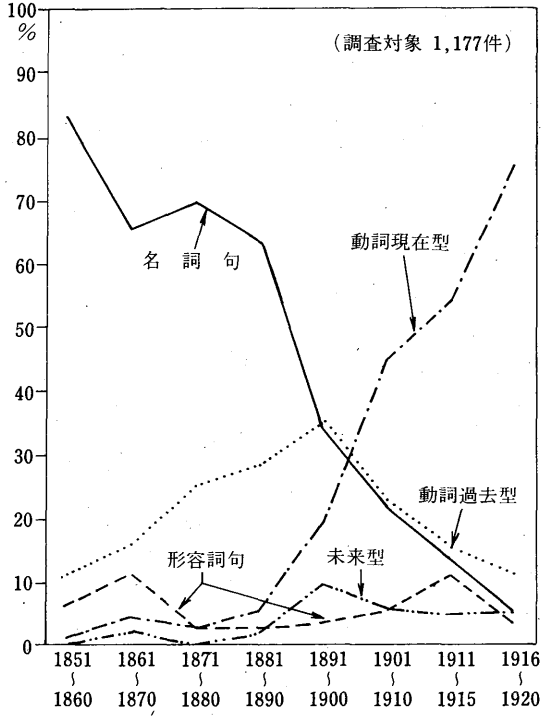
（調査対象総件数 1,177 件）

1. 名詞句表現

ＮＹＴにおける見出しは，当時他の新聞社でも同様であったが，19世紀の末期を除き１コラムのスペース内に収めていたので，必然的に短い表現，即ち名詞句が多くなった。

また19世紀の米国は新移民が多く，読者は母国の情報入手を待ち望み，国名や都市名のみの見出しで最初に読む記事を容易に判断できたものであ

図2．見出し文型別推移図（1851～1920）



ろう。ＮＹＴ初期のトップ記事は入港船の寄港地と積込んだ新聞名を記述している。

時代の進展とともに読者の関心も多様化して，複雑な内容を正確に報道したり，他紙との競争は，新聞作成の技術に変革を求め続けてきた。New Journalism や Yellow Journalism の出現は大きな刺激ともなって，今世紀への変り目を前後して，句表現から文表現へと次第に変化せざるを得なくなり，1850年代の調査対象件数の82％に昇っていた名詞句が1916年からの５年間では，4.6％と大きく減少した。

2．　動詞現在型

単一の名詞句で表現不足となる部分を，他の名詞句で補うとすれば，大

きなスペースとなる。この隘路を打開しようとするのが文形式の見出しである。現在形の動詞を使うことによって，見出しは，格別に躍動性及び緊迫性が加わることとなる。この感覚が理解されると本文内の過去事実とのギャップはあるが，急激に使われ始めたものではなかろうか。1890年になると，80年代の4.9％から19％と約4倍弱の増を示し，20世紀になってからも伸び続け1916年からの5年間では76.4％と名詞句と逆の経過を辿っている。

3. 動詞過去型

通信手段が未発達の時代には，過去形で表現しても，読者はこれを理解して，受け入れていたのではなかろうか。記事の本文は，現在でも過去の事実は過去として報道していることからすれば，見出しが過去か現在かの迷いは，瞬時のことであって感覚的なものにしか過ぎない。特に受動態の場合は，be動詞が省略されているので，読者は僅かな間ながら迷うことがあり得る。1890年代に単純過去を含めた過去分詞の使用率は最も高い数値34.9％を示しているが，これは，過去形から現在形への転換への経過段階として重用されたのではないかと思われる。調査資料数が少ないので，今後の研究対象としたい。

4. 形容詞句及び未来型等

形容詞句を使用する場合は，次例のように雑誌記事の見出しや大事件の際の状況を示す場合が多いので，一定の比率で使われ，新聞では，大事件や評論が多いとその割合が増えるものであろう。

Ex. Heading for a Showdown

Putting Her Hopes on Ice

(Time. Sep. 3, 1988, p. 43)

未来型についても，場合により必要不可欠なもので，大きな変化は認められなかった。

Ⅳ まとめ

1851年以降1920年までのアメリカは，社会的，技術的，経済的に大きく変化してきた。社会制度や電信・無線・印刷技術の発達は新聞の発行に大きなメリットとなり，良き紙面の製作を醸成してきて，ほぼ今日の原形ができあがったと云える。

この時代まで，新聞は庶民の身近な存在となって，時代と共に歩み，特にＮＹＴは初期を除き中庸な道を進んできたと思われる。この様な新聞に対する関心は1920年になってようやく高まり，種々の研究がなされた模様である。この分野における古典に属するもので，William Strunk, Jr. 及び S. B. White の "The Element of Style" が1919年に初版が出版されてから，新聞語法の研究が進んだ。見出しに限ると，NYT の Managing Editor であった T. M. Bernstein の Watch Your Language 及び彼が J. W. Corder と共著した "Headlines and Deadlines" は，見出し研究上欠くべからざるものとなっている。彼が前書で，見出しを書くことは，熟練職人の労作であって誰もが書けるものではないと云っている。浅学の筆者が NYT の見出しに手を出すことは重荷に過ぎるのは理明であったが，現在の見出しの原点になんとか達したことで，次の発展段階の研究に参考となればと考えている。

Notes

(1) Schwarzlose, R. A. *Newspapers* (Greenwood P. 1987), p. xxi-iv.

(2) Ibid., p. 58.

(3) Hughes. J, *Words in Time* (Basil Blackwell, 1988), p. 133.

(4) Fcwler. H. W. *Fowler's Modern English Usage* (Oxford Uni. P. 2nd ed. 1982), p. 241.

(5) Ibid. p. 242.

(6) Ibid. p. 399.

(7) *The Shorter Oxford Dic.* (Oxford Uni. P. 3rd ed. 1973).

(8) Schwarzlose, R. A. *Newspappers* (Greenwood P. 1987), p. 66.

(9) Ibid. p. xxviii.

(10) Ibid. p. xxix & p. 72.

(11) *Compton,s Encyclopedia*——Spanish-American War (F. F. Compton Co. 1971-ed.).

(12) *Georgetown Uni. Round Table*: 1987 (Georgtown Uni. P. 1988)p. 189-206.

(13) *The Shorter Oxford Dic.* (Oxford Uni. P. 3rd. 1973).

Bibliography

Adams, V. *An Introduction to Modern English, Word Formation*, (Longman, 1973).

Bernstein, T. M. *Watch Your Language*, (Atheneum, New York, 1983).

Corder, J. W. and Ruszkiewig, J. J. *Handbook of Current English 7ed.* (Scot, Foreman & Co. 1981).

Follett, Willson, et al. *Modern American Usage*' (Hill & Wang, 1986).

Foster, Brian, *The Changing English Language*, (Macmillan P. 1981).

Garst, R. E. & Bernstein, T. H. *Headlines and Deadlines*, (Columbia U. P. 1961).

Gordon, Ian A. *The Movement of English Prose*, (Longman 1966).

Miles, Robert & Bertonasco, Marc, *Prose* Style *for the Modern Writer*, (Prentice Hall Inc. 1977).

O' Donnell, W. R & Loreto Todd, *Variety in Contemporary English.* (George Allen & Unwin Ltd. 1980).

Partridge, E. *Usage and Abusage*, (Penguin Books, 1973).

Read, Herbert *English Prose Style* (Beacon Press. 1952).

Strunk Jr., William & White, E. B., *The Elements of Style. 3rd ed.* (Macmillan 1979).

Todd, Lorreto & Hancock, Ian, *International English Usage* (Croom Helm Ltd. 1986).

Veltman, Calvin *Language Shift in the United States* (Mouton Publishers 1983).